



## 明日の世界を担う子どもたちをタバコの害から守ることに私たちも力を注ぎます

日本小児科連絡協議会「子どもをタバコの害から守る」合同委員会  
委員長 衛藤 隆

UICC（国際対がん連合）から『たばこの煙から子どもたちを守るには』が発刊され、このたび関係者の努力により日本語版が完成したことをお喜び申し上げます。私たちは、(社)日本小児科学会、(社)日本小児保健協会、(社)日本小児科医会の3団体が協力し、意見交換を行いつつ子どものためになる各種活動を行う日本小児科連絡協議会という組織の下に設置された「子どもをタバコの害から守る」合同委員会として、子どものための無煙社会推進宣言の発表（2005年）、タバコ自動販売機廃止要望書の関係府省への提出（2006年、2007年）、禁煙シンボルマークの作成と公表（2006年）など、子どもをタバコの害から守るための様々な活動をして来ました。

子どもが生活の中でタバコの煙を吸ってしまう間接喫煙（日本では受動喫煙という用語が普及していますが同義）は子どもの現在の健康を害するだけに止まらず、将来の健康にも影響を及ぼす可能性があり、極めて重大な問題です。世界レベルで子どもの間接喫煙に対する警告が発せられ、具体的な行動が提案されたことは、明日の世界を担う子どもたちの健康を保障する上で大きな意味をもつと考えます。ここに書かれた個々の内容について、私たちも理解を深め、現実の社会において何をすればよいのかを考え、行動する必要があると思います。

子どもが間接喫煙によりタバコの煙に含まれる様々な有害物質や発がん物質を長期にわたり（実際にはほとんどが胎児期から）吸い込むことにより、どのような健康障害が発生するかについては全てが解明された訳ではなく、新たな知見が明らかになる可能性があることも私たちは知っていなければなりません。例えば白血病やその他の悪性新生物の発生との関連などはいくつかの研究が散見されますが、さらに疫学調査等により解明される必要があります。私ども合同委員会といたしましては、世界の人々と手を取り合いながら、今後とも、子どもたちをタバコの害から守り、健やかで安全に育ち、暮らすことが出来るような環境の整備に努めてゆきたいと思います。